



# 12年前日記

---

2000年1月31日  
(月)

---

山田夫妻

---

【2000年1月31日(月)】\*2012年1月31日(火)記

10時、起床。完全に寝不足だ。一晩中、身体中の火照りに火照りきった激痛のせいで眠りがひどく浅く、ちょっと寝動きするだけで目を覚ますハメに。まあ、こんなもんは二日酔いみたいなもんで、差し詰め、二日日焼けヒリヒリ。こういうときは迎え酒よろしく、迎え日焼けヒリヒリに限る。歴戦の結果、もう体は日焼けヒリヒリどころか、どこもかしこもボロボロだが、決して枯れ果てることなき、老いらくの根性を見せつけてやる。とりあえず、キャーキャー水シャワーに三連泊目することを即決し(180B)、挨拶程度に軽く根性を示す。今しがた謙遜したばかりで恐縮ですが、本当はかなり大掛かりな根性試しなんです、バンコクでいたすのとは大違い、このメソトで連泊する勇気たるや。もちろん水シャワーに3日連続挑戦もすごい偉業なんです、いいですか、メソトでも障子に目アリ壁に耳アリ。命が惜しければ、連泊は絶対避けたほうがいい。うるせえ、例え命知らずとののしられようが、大の男がビビって、毎日毎日コロコロとホテルを替えられるかってんだい。肌ヒリヒリしてんだよ。だからもう気分は来るならいつでも来い、何人でも相手してやるだ。この前、度重なる検問も無事に突破突破突破したから、自信满满みたい。まあ、確かに俺だって、もう完全にスパイがどうこう言うゴッコ遊びには完全に飽きているけど、なんか外に出たくないから、ウダウダ言うしかないっしょ。ようやく苦行、朝水シャワーでひとしきり悲鳴をあげた後、服を着るのに「日焼けが擦れる」と当たりまえだのクラッカーな大騒ぎをしてみる。ぶっちゃけ、昨晚よりはいくらかマシなヒリヒリ具合ではある。よくなったというより、単に痛み慣れたのであろう。どんな環境にもすぐ適応できなくて自称プロ戦場特派員が勤まりますかっての。え、そうなの。どうしよう、日焼けはお肌によくはないだの、年とってシミやソバカスになったらどうしようだの、でも乳首はキレイなままだのとそんなこんなでまだまだウダウダと部屋で時間が過ぎ去るのをひたすら待つ。ちょっと待つ。これじゃあ、まるで部屋干しみたいなもんじゃねえの。それじゃあ、湿っぽ臭くなっちゃう！ 意を決して、外に飛び出す。実はね、お腹すいちゃったの。今朝は大丈夫かなと試しにそっ〜と背負って歩いてみたら、振動で皮膚がズリムケそうになったカメラバックは当然、部屋に堂々と部屋の真ん中にド〜んと置いてきた。盗むなら盗め。大手を振って、「くやしいです、カメラさえあれば、大スcoopをものにしたのに、憎い、コソ泥が憎い。引退記念にそっとカメラを置いてくるって人気取りのパフォーマンスもできませんでした」って笑顔で帰国できるわ。11時30分、身軽だけど皮膚と半袖が擦れると痛いのでゆっくりとなるべく建物の日陰を選んで、バイク屋へ急ぐ。昨日ガソリンを残したまま返したバイクがないか探すが見当たらない。仕方がないのでバイク屋の親父の言うがまま、他のボロバイクをまたパスポートを人質に借りる(160B)。男がいつまでも昨日残して返したガソリンのことでクヨクヨしてられねえぜ。明日の12時まで24時間、コイツが俺のバイクだ。颯爽と跨り、キーをスポッと差し込み、エンジン始動。右ハンドルのアクセルを軽くひねり、バイク屋の前からゆっくりと走り出す。エエ感じだ。バイク慣れもメソト慣れも早三日目。昨日一昨日は慣らし運転みたいなもんだったから、今日

が本番。だからって、まだ半裸になるには早すぎる。しかも今日は両乳首だけ守るカメラバック  
ブラがないから、全部コンガリ焼けちゃう。“まだら日焼けのビーチク真っ白もしくはピンク野郎”  
って仇名がなくなるのは惜しい気がする。もちろん、バイクを借りた本来の目的は片時も忘れち  
やいないぜ。メソト慣れもバイク慣れも済んだんだから、後は難民キャンプを目指すのみ、だろ  
。だけども、ココに来て急に発生した大問題があるんべよ。そう言えばさあ、俺ってばよう、  
難民キャンプの正しい位置なんて知らないわけ。そんなこと最高学府でも幼稚園でも教えてくれ  
なかったんだぜ。でも学士様だから幼稚園児じゃないかえあなんとなくは分かる。だって日本で  
いろいろと大宅壮一図書館や都立図書館でリサーチし、カレン族やカレン族の難民キャンプにつ  
いての新聞雑誌の資料を片っ端から集めたもん。でもそういう一切合切は全部日本に置いてきた  
からね。重いから邪魔じゃん。ただでさえ、でっかいザックと重いカメラバックを後生大事に抱  
えてるんだぜ。そりゃ、全部持ってくるのが重ければ、必要なところだけ抜粋メモで書き出す  
なりコピーしてくればいいじゃんと素人さんは簡単に言いますが、初取材の諸々の準備でバタバ  
タしているときにそんなことにまで気が回るか！ てかお言葉ですが、そんな、もし捕まって拷問  
されたりしたとき、そんな資料や抜粋メモすらあったら、超ヤバイじゃ～ん。ちゃんと全部記憶  
して、頭に入れて持ってくるもんだぜ、自称プロならば。えっ～、私は一切記憶にございません  
。全部秘書がやったんじゃないっすか。でも、確か俺に美人秘書いなかった気が。ってことは、  
どの言い訳でも、仮に難民キャンプの取材パスを首尾よくゲットしていても、肝心の難民キャン  
プには行けなかったってこと。ふう～、危うく宝の持ち腐れになるところだったぜ、ギリセーフ  
。そんな腐るものを持たざるものの強み！ と開き直って腐っていても仕方ない。でも本当、ど  
うやって難民キャンプに行くつもりだったんでしょね、俺ってばおっちょこちょい。現地に行  
けば何とかかなると思ってたか、端から難民キャンプなんて行く気がなかったか、あくまで形だ  
けのアリバイ作りでとりあえず2ヶ月くらいタイに行っていればいいっしょ、それで文句ないん  
でしょ、だって。なんとなくうる覚えの記憶が頼り。無事に辿りつけた暁には、取材許可証がな  
くても胸を張ってコッソリ入れればいいさ。そうと決まれば、記憶を洗い直し、さる情報筋こと、  
俺のあやふやな記憶に拠ると、バイクで行ける距離に●●難民キャンプと●●難民キャンプがあ  
るはず。メソトから一番近いのはメラ難民キャンプ。確か●年に夜陰に紛れて越境してきたビル  
マ軍に襲われたはず。後、かすかな記憶ならまだまだある、なんたら難民キャンプに、かんたら  
難民キャンプなどなどぜんぶで10コ近い、カレン族の難民キャンプが点在している。どんな些  
細な情報もどう転がって役立つかわからない。メソトの右上のあたりに難民キャンプがあつたり  
なかったりした気が。ホントこれなんていいヒントだ、記憶が正しければ。方角だ、距離だ、走  
行時間だはが分かって、とりあえず北西とか言われても、コンパス持ってねえし。昔、あるお  
父さんが言った。西から登ったお日様が東に沈む、エッ、本当！？ バカボンのパパの言うこと  
の反対が正解なのだ、だから、太陽は東から昇るらしいけど、今、太陽さんは真上だから、ど  
っちから登ったかわからないじゃん。太陽のバカヤロ～！ ああ、すっきりした。ま、とりあえず、  
小さなことからコツコツと。今できることから、一個一個確実にやるしかない。ガソリン  
スタンドへ行き、ガス満タン（48B）という異国の地でいまだ下っ端丁稚仕事。バイクのエン  
ジンを給油ノズルの前で切って、ポツ～と突っ立って、ガソリンスタンドの兄ちゃんや姉ちゃん

がガソリン入れるのを眺めているだけだが。薄ボンヤリ、ガソリンスタンドを後にして、しばらく走っていると道路標識の看板にこのまままっすぐ、国境へ8キロみたいなことが書いてあるのに気付く。キョロキョロ注意しながらしばらく走るも、残念ながら難民キャンプの案内は出てないなあ。国境への案内はそこかしこに。う～ん、国境かあ。逆にいいかも。発想の転換。タイとビルマの国境はモエイ川。モエイ川にかかる、最近出来たばかりの●橋を渡るとすぐにビルマ側の国境の街ミャワディーだ。とりあえず一度正規に国境を越えて、ビルマの空気を吸ってみよう、話の種に。まるでまっとうな自称プロ戦場特派員みたいなことを思いついたばかりにこの後とんでもないことに。その後も幸い、国境への看板は道々に立っているし、まだ多少迷いもあったが、バイクで風になり、時間が経つにつれ、国境を越えて見るのも悪い案じゃない気がドンドンしてくる。なんか成し遂げた気にはなれそうじゃん。そうだ、今日は国境を越えようと決意を。偉大なる第一歩を。そう決めると鬱屈としていた気分が晴れ晴れと高揚してくる。ビルマに入国すれば形になるんじゃないかねえ。もし万が一、難民キャンプとか従軍とかが全部アレでも。じゃあ、態度で示そうよ～というわけで、道路が波打っているところをわざと通りグワングワンしたり、大穴にわざとガクンと落ちて、おとととなんてユニークなところを浮かれた自分に披露したり。そんなこんなで国境への標識を追いながら、真実一路国境をまっしぐらに目指す。かならず今日中に国境を征服してやるぜ。もうヤル気満々。遠めに目的の立派な国境の橋がチラリと見えた。間違いない。早く国境を越えて、ビルマへと逸る気持ちを抑えて安全運転を心掛ける、焦らしプレイとか下品なこと言わないで、もっと～。グングン迫ってくるかの如く、大きくなる国境の橋。しかし、目の前に見えた途端、気が変わるというか、この期に及んでウダウダしようと思いつく。おいしいものは後から、まずはまずいものから。つまり、お腹ペコペコなの、バイクにはエサやったけど、俺は朝から何も食べてないもん。とりあえず腹が減っては戦ができません、まずは腹ごなしだと、目についた国境近くの観光客用のおのぼり食堂みたいな駐輪場にバイクの頭を突っ込み、エンジンを切っ...、ん？ アレレ？ ??? えっ～とね、男だと思ってパンツ脱がしたら、女だったと申しましょうか、要はあるべきところにあるべき肝心のモノがない。マンコじゃ～ん！ バイクのチンチンこと、つまり鍵がな～い、なにこれ手品？ さっきまであったはずだし、今の今まで走ってたじゃん。イリュージョン？ 宇宙人の仕業？ とにかく寄ってらっしゃい見てらっしゃいのイツショータイム！ これから、走行中にどっかにバイクの鍵を落としちゃったみたいな人のモノマネします。必死に下だ、バイクの周りだ、見える範囲内の来し方だを見やるも鍵は落ちてない。いやん、ばかん、似てない。いつ落ちた？ 最後に鍵を見たり使ったのはガソリンスタンドのとき、確かに鍵はあった、ガソリン入れて貰った後、鍵でエンジンかけたもん。てか、落ちるもんなのか、カギって、走行中に？ そして、鍵が落ちてもバイクは走り続けるもんなのか。すげえな、ホンダ。これだけタダで宣伝してるんだ、ホンダ、スポンサーにつかないかなあ。3行に一回、ホンダのCM二連荘でサンプルとして流すよ。これ以上、余計な詮索は後回しだ。過去を見るな、現在を未来を見る。不幸中の幸いでまだエンジンはブルブルと掛かっている。鍵がないからエンジン切れないおかげだ。よかった～、鍵がなくて。「さすがホンダ、バイクはホンダ！」。しかし、ここでエンストしたら、もう二度と金輪際エンジンをかけられない。右ハンドルのアクセルをゆっくりそっ～と手前にひねる。エンジン音が

急に高まり、空回しっぽい音を経て、低いブルブルエンジン音。「がんばれ、ホンダ、やっぱバイク乗るならホンダだね！」一瞬止まりそうな音が。びっくりさせんな！ クソホンダ！ 一気に昇天しないようにそっと触るか触らないか程度にサワサワとアクセル操作。もちろん両足で前にこいで補助してやっている。大丈夫大丈夫、バイクにやさしく話しかけながら、なだめすかすようにゆっくりとバイクの頭を今まで来た道へと戻す。もうこうなったら、こっちのもんだ。国境どころの騒ぎじゃない。我、遂に越境す、なんて甘っちょろい、安っすい男のロマンをいつまでも追い求めている訳には行かない。もう落ちる鍵もないが、何かの拍子にエンストしたり、事故を起こすといやなので、超安全運転で来た道を、スタートのバイク屋を目指す。道中はパーフェクト無意味と化した往復約16、7キロのガソリンの無駄使いのことばっかし考えていた、後、セックスのこと。だって、そうでもしないと泣きそうだったんだもん。一体何のつもりよ、誰の仕業、どこのどいつが毎回毎回小まめな嫌がらせの数々をするのよ。ちょっと国境越えようと思った途端に。国境なんて観光客にも越えられるのに、わしゃ、観光客以下かい。別に難民キャンプに行こうとしたわけでもないのに。従軍取材なんて夢のまた夢の状態なのに。いっつも、こう！ ちょっとうまく行きそうになると、ここぞというタイミングで邪魔ばっかする！ ココまで一字一句漏らさずマジメに読み進めたキミなら、あ、お前は違うだろ、斜め読み専門だろ、きっと分かるはず。もうこれは、CIAだ、なんてコソ泥レベルのちっぽけなもんはもちろん、国家レベルなんて小さいものじゃなく、地球規模、いや宇宙規模の大きな意志を感じた。その真犯人に繋がる唯一の人物はバイク屋の親父だ。昨日、ガソリンが残ったままのバイクを返してやった上に、今日もバイクを借りに来てやった客に、余程の恨みかすんごい事情がなきゃ、こんなバイクを貸すわけがない。確かに鍵が落ちるような走り方をした記憶もあるが、キレイに消し去る。もち親父とタイマン張るときにはそんな素振りも露とも見せないつもりだ。そもそもそれくらいで鍵が落ちてたら、地球上の道路という道路はバイクの鍵だらけじゃないか。俺は完全無欠の無罪だ。こうなったら、あのバイク屋の親父風宇宙人をとっ捕まえて、こっぴどく拷問してやる。ようやく、どこにも寄り道しなかったのに、行きの倍以上の時間をかけて、バイク屋に到着。平静を装った親父がちょうど店の前に突っ立っていた。まるで俺が来るのが宇宙人のテレパシーで分かっていたように。そっちがそのつもりなら、俺にも考えがある。バイクを親父の前でとめる。鍵穴を指差し「鍵が落ちてなくなった、お前の仕業だろ、てか、宇宙人の仲間なんだろう？ 調べはついてんだ」と矢継ぎ早に日本語で問い詰める。宇宙人なら日本語も分かるはず。バイク屋の親父はわざとらしくウンウンと頷く。ほら、やっぱり！ 頷いたからバイクやの親父、宇宙人確定！ え～、只今、未知との遭遇中です！ バイク屋の親父こと宇宙人はやっぱりかというしたり顔をして、「知ってるよ、そのバイク、鍵穴がガバガバなんだよ」みたいことをタイ語で言うと店の奥へ。どうしよう、宇宙人仲間を呼びにいったのかなあ。どうしよう、このままUFOに連れさらわれちゃう。ワレワレはウチュウジンだ、との丁寧な自己紹介後、いきなり手術で頭に変なチップとか埋め込まれるんだ。そんでもって宇宙人のスパイとして今までと寸分違わぬ生活を営む。軽くてんぱっていると、すぐに長いヒモのついたスペアキーらしきを片手に戻ってきて、モノも言わずに俺のバイクの鍵穴にムンズと差し込んだ。本鍵が落ちていないことをいいことに、そんな間男みたいな真似を、俺に断りもないどころか、俺の目の前で。しか

もガバガバ不貞妻とはいえ、前戯なしってか、レイプでももう少し段階踏むのに、いきなりかい！ 誰でもというか、どの鍵でもよかったらしく、親父が鍵をひねるとエンジンはとまった。そして、立て続けに抜かすの二回戦とばかりに、反対に鍵をひねるとエンジンがかかる。ニカットと宇宙人っぽく笑うバイク屋の親父。そんな笑顔に、こんなバイク貸すなよ、昨日ガソリン残してバイク返してやったばかりの上客にとよっぽど他のバイクに取り替えてもらおうかとも思ったが、よくよく考えると、ガソリンを入れたばかりで国境を往復しただけのバイクとガソリン空っぽのバイクの交換を考えを天秤にかけて、太っ腹を装って、何も言わずにこのバイクでいいことにする。思わず自分で自分を納得させてしまったが、コレぞ、まさに宇宙人の手口。たぶんテレパシーか何かでそう仕向けたのだろう。ヒモのついた鍵っ子みたいなバイクでトボトボとまたバイク屋を後に、あてどのない旅に出ることに。おそるおそるスタート。とりあえず駿直しに半裸になる。仕方なく、メソトの街をウロチョロ走って過ごす。誰よりも遅く疾走。超安全運転ゆえビュンビュン抜かされまくり。たまにプップップッ~なんて、道の端っこを走っているのに鳴らされる始末。なんか途端に街中で半裸が恥ずかしくなり、町外れに行く。宝探しみたいに、さっき落とした鍵を探そうかと思ったが、別段鍵代も請求されなかったから、やめておく。え、国境？ もちろん宝探しゲームのどさくさに紛れて、もはや国境を越えようという勇ましい気持ちは霧散。五里霧中。元気でなあ~。そもそも親しき中にも礼儀あり。そんな出会ったばかりで、いきなり超えてはいけない一線があるはずと考えを改めた。もう少し親しくなって両者合意の上からじゃないと一線を越えるのは、それが万国共通の礼儀作法っしょ。俺にモエイ川を渡る資格はまだない。手順を踏まないとA、B、Cって。そもそもよく考えたら、一切用もないのに、国境を越えて、ビルマに入国する行為は完全に観光だ。ビルマ側に難民キャンプがあるわけではなし。しかもビルマ入国を果たしても、ビルマ側の国境の町ミャワディーしか行けない。目暗滅法にミャワディーを散策したところで、カレン族、しかも軍隊のお偉いさんに会えて、従軍取材を申し込めるわけでもない。難民キャンプや従軍取材の足しになるわけじゃない。もしかしたらもしかしたら、そのよすががあるかもしれないが、そんな幽かな希望のためだけにこの期に及んで観光している場合じゃない、こちとら、別にビルマに合法的に入るのが目的じゃない。ビルマ入国しましたってアリバイ作りに何の意味がある。越境して、ミャワディーを抜け出し、ビルマで潜入取材するつもりなんて更々ない。そんな外国人は行くところが制限されているビルマでそんな危険なこと、物好きな自称プロ戦場特派員じゃあるまいと小市民チックなことを思うわけですよ、さすがの俺でも。例え、据え膳食わぬは男の恥と後ろ指さされようとも譲れないものがある。郊外の路肩で、どこに行こうかなあとガイドブックのメソトとにらめっこ。肌がチリチリ焼かれる。ハッ、宇宙船からレーザーか？ もう全部宇宙人のせいにして、帰国しちゃいたい。すっごい本音がポロリ。あ、最新情報です！ 本当はもうホテルに帰る気満々だったくせに、見栄張ってポーズだけ次はどこ行くべきとガイドブックを形ばかり眺め、それだけならまだしも、ガイドブックを眺めながら、コッソリとせめて国境に行った気になろうとさえしていたわけですが、ひょうたんからこま、改めてガイドブックを見直すとなんと国境越えに18ドルもすることが判明。18ドル、つまり700B、つまり2000円もするんだぜ、ボッタだよ。今日はもう遅いし、ケチがついたから、明日改めて行ってもいいかなあなんてちょっと思ってたけど、前

言撤回、仮に難民キャンプの足がかりなり、従軍取材の伝手ができるとしても、誰が18ドルも払うか、橋なんかに！ 俺は金のために人生棒に振って、こんな馬鹿げたことしてんじゃねえ。足元見られてヘイコラしてたら、商売上がったりだ。どこに出しても恥ずかしくない真っ当な貧乏自称プロ戦場特派員だ。ただただ、お金がもったいないだけ。危ない危ない、この世は落とし穴だらけだ。災い転じて福となす。ドテって寝ている、タダマンのサセ子マグロかと思い込んでたよ。その正体は売春マグロだったとは、メスマグロは怖い…。そりゃね、確かに据え膳食わぬは男の恥だけど、据え膳はやっぱタダでこそ。これじゃあ、あんまり身も蓋もねえから、じゃあ結論はと言うと、18ドルもしたからイチ抜け〜た。でも、そういうとまるでドケチみたいだから以下の言い訳をどうぞ。夢は残しておきたいじゃん、いつか立派な金持ち自称プロ戦場特派員になってきつと迎えにくるから、それまで待っていてくれ、メソトの国境ちゃん、そんときは喜んで一線越えちゃうから（突然、2012年の俺だけど、後もう少しだけ待って、後もうちょっと、12年ばかしくらいでいいからさあ、いきおくれもいいもんさ、徹底的な行き遅れなら、それもまたいい思い出、いい思い出。そもそもそんな簡単に結ばれると思うな、誰にでもすぐにちんちんおったてて、一線越えちゃうチン軽じゃねえぞ、俺は）。あ、もう行かなきゃな、リングで世界一の男が、難民キャンプがどっかで待ってるから。じゃあ、国境越えは諦めて、とっとと難民キャンプを探せばいい。でも、もう今日は昼過ぎだし、まだ昼ご飯食べてないし、こんなケチがついちゃったから、仕切りなおして明日の朝イチあたり、ってことでうまく処理しといてちょ。14時30分、セブンイレブンで昼飯を買い込み（58.5B）、ホテルの部屋に名譽の撤退。焼きが足りなかったのか、中途半端に乳首が日焼け。昨日ほどではないが、新たな新入りヒリヒリが。水シャワーを恒例のキャーキャー浴びして、フテ昼寝。この一連の流れがいわゆるメソト二大事件の第一発目の大事件と呼ばれるものである。遠いビルマ、国境の変と名付けた思い出1ができる。もしお疑いならば、各々方の身近のバイク乗りに聞いてみな、走行中に鍵が消えてなくなるのが大事件か些細な事件かどうか。18時、昼寝おきぬけにキャーキャー服を着て、鍵っ子バイクで薄暗くなりつつある街を流す。服越しに吹く風がヒリヒリするビーチクに気持ちいい。まるで夕涼み。今日もまたでっかい太陽が地平線に沈みゆく。侘び寂びヌキでもなかなかな乙なもん、風流なもんじゃな。ヌキ8て〜。下世話な歌を歌いながら、アッチが西だなと確認。きつと明日になれば忘れちゃうけど。タイ飯屋で昨日とまるっきり一緒のディナー（58B）。19時、ガソリン代がもったいないので、食後はセブンイレブンにだけ立ち寄って、憂さ晴らしして（81B）、ホテルに戻る。1時、明日こそは朝イチで難民キャンプを絶対目指す、どこにあるか分からないけど。メソトを訪れた誰でも見に行けるタイとビルマの国境すら見に行けなかった俺が言うのもなんですが、まあ、アレは不可抗力さ、バイクのカギが落ちたなんて。18ドルも不可抗力の範疇だし。さすがに二日連続で鍵は落とさない。そんないい夢が見れることを祈って就寝（また2012年ね、予告通り今日、メソト二大事件の一発目が起こったばかりですが、こんな一発目の大事件なんて目じゃない二発目の大々大事件の伏線が、早くも明日、難民キャンプを目指す明日にはもう張られます。まあ、あくまで伏線ですからね、勘違いしないでよね。さ〜て、何が起きるのでしょうか？）

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ～。



『12年前日記 2000年1月31日(月)』

<http://p.booklog.jp/book/43323>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43323>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43323>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.